公益社団法人　隊友会　https://www.taiyukai.or.jp/

今こそ読むべき一冊。激動する国際情勢と防衛力整備の方向性を示す、防衛関係者必携の最新特集「ディフェンス64号」が令和9年1月20日に発刊予定（4面に詳細）

隊友

令和8年10月15日
第870号　毎月1回・15日発行

発行所　公益社団法人 隊友会本部
〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5番1号
電　話　03(5362)4871・FAX4876
購読料　1カ月120円（税込み送料別）、1カ年1,700円（税込み送料共）
kouhou@taiyukai.or.jp

隊友 web 版はホームページ右側の WEB 隊友紙から

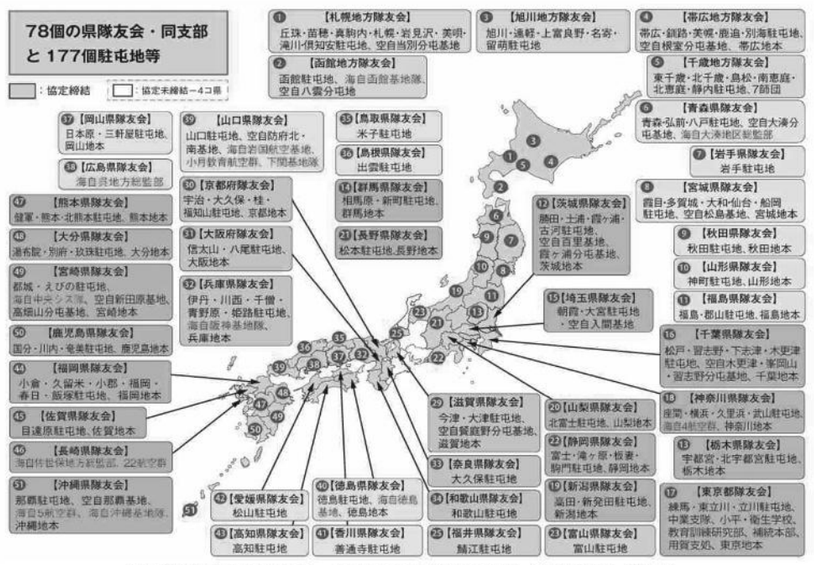
空自が家族支援協定を促進

空自では、協力団体による家族支援協力の実効性向上を図る観点から、5月7日付で、各基地業務担当部隊等の長に対し、「家族支援協力に係る地方協定締結の促進について（依頼）」を発簡し、本年度中の地方協定締結に向けた調整を実施するよう促している。

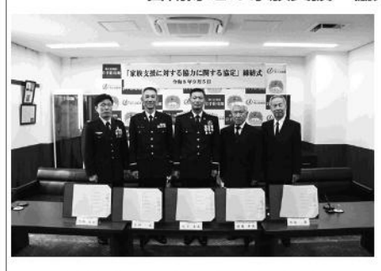
令和7年3月14日、防衛省は、隊友会及び自衛隊家族会と「家族支援に対する協力に関する協定」を締結した。本協定は大規模災害時における派遣部隊隊員家族の支援協力等を実施するもので、原則として部隊からの協力要請に基づき隊員家族の安否確認や家族の生活支援等を実施する。防衛大臣が直接、自衛隊家族会及び隊友会の代表者と締結し、支援対象を陸海空各自衛隊の隊員のみならず、防衛省・自衛隊の全ての機関、全ての自衛隊員に広げた。本協定に基づき各部隊は協力団体と個別に協定を締結し、具体的な要領等を調整している。

空自では、本件に関連し、隊友会との地方協定締結に係る検討を行う場合には、各基地業務担当部隊等から、該当する都道府県隊友会へ直接連絡の上、必要な調整を行うこととしており、部隊ごとに調整を進めている。

9月末現在、8月4日：小松基地、輪島分屯基地（石川県）、9月5日：山田分屯基地（岩手県）、9月13日：大滝根山分屯基地（福島県）、9月25日：加茂分屯基地、秋田分屯基地（秋田県）が地方協定を結んだ。



自衛隊との家族支援・協力協定の締結状況（R8.3.31 現在）



締結式の記念写真（岩手県）



締結式の様子１（福島県）



締結式の様子２（福島県）

国際平和協力隊 司令部要員を激励

8月25日、隊友会は、国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）に国際平和協力隊司令部要員として1年間派遣される2名（佐藤典子3陸佐＝情報幕僚、牛尾翔太3陸佐＝施設幕僚）を防衛省で激励した。

UNMISSへは、施設部隊と司令部要員が、2012年から半年交代で毎回約350名が派遣されたが、2017年5月の施設部隊撤収後も司令部要員4名は派遣が継続されている。要員は1年勤務で2名づつの相互交代となっており、今回派遣される2名は、出国後、本年4月に出国した要員（安積彩花3等陸佐＝兵站幕僚、中村航輝3等陸佐＝航空運用幕僚）とともに、南スーダン共和国の首都ジュバにあるUNMISS司令部で勤務する。



左から牛尾3陸佐、佐藤3陸佐

令和9年度防衛省概算要求について

堀井　泰蔵（隊友会常務執行役　元陸将）



はじめに

令和9年度（2027年度）防衛省概算要求は、総額8兆8千908億円を計上し、前年度比約0・9%の増加となった。本概算要求は、防衛力整備計画（5カ年・総額43兆円）の最終年度に当たり、年末に予定されている安保関連3文書の改訂を見据えたものとなった。本稿では、本概算要求の全体像とポイントを紹介し、若干のコメントを加える。

1　概算要求の全体像と背景

今回の概算要求は、2022年に策定されたいわゆる安全保障関連3文書（「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」）に基づき、5年間でわが国の防衛力を抜本的に強化するという政府方針の最終年度に当たる。現行3文書は、策定時の想定以上の速度・複雑さで国内外の情勢が変化したことを受け、年末を目途に改訂されることから、現在検討中の内容に左右されると考えられる事業などについては、予算編成過程において検討することとして「事項要求」とされている。このため、新防衛力整備計画の初年度にも当たり、事項要求の全てがR9予算に計上されるわけではないものの、本予算計上段階では更に増額される可能性がある。また、3本柱・9項目を重視事項として掲げ、個々の装備品の事業要求というよりも、戦略・作戦システムとして防衛力を整備する姿勢が鮮明になっていることが本要求の特徴である。

2　重視ポイント（3本柱・9項目）

（1）「新しい戦い方」への対応

ア　AI

AIを活用した高度なデータ処理・分析を指揮統制等の分野への導入を迅速に進める必要があることから、既存の海外技術を活用し早期に整備、国内技術の強化を推進するとともに、高速・大容量かつ多層な通信ネットワークを構築する。

主な事業としては「統合作戦司令部の意思決定支援システムの整備」「次世代AIプラットフォーム（AIオーケストレーター）の構築」「防衛クラウドの整備」等、ほぼすべての事業が事項要求である。

イ　無人アセット

昨年度から引き続き重点整備されているが、本要求では「世界一無人アセットを駆使する組織」を掲げ、迎撃能力・反撃能力としての活用、スタンド・オフ・ミサイルとの組み合わせ、水中優勢獲得が加わる。なお、昨年度の「SHIELD構想」の文字は見当たらず、単一のシステムとしてではなく、多種多様な無人アセットを目的・運用場面に応じて、無人アセット同士・その他の情報収集システム・火力システムと組み合わせ、従来の「欠落機能の整備」といった捉え方から「主要装備」として質・量の充実を図るものと受け取れる。

主な事業としては「情報収集・警戒監視・ターゲティング用UAVの取得」「攻撃用UAVの取得」「UUV用スタンド・オフ・ミサイル発射ユニットの研究」「汎用小型UGVの開発」等、約3千700億円＋事項要求と大幅な増額が見込まれる。

ウ　スタンド・オフ

抑止力発揮の切り札として従来から急速・大規模に整備されている分野であり、国産12式地対艦誘導弾能力向上型の艦発型を継続取得するとともに、空発型取得を新規要求。25式地対艦誘導弾・高速滑空弾・極超音速誘導弾の開発・取得を継続するとともに、残存性の高い水中プラットフォームから発射可能なスタンド・オフ・ミサイル開発に着手する等、更なる整備が加速している。また、高価・高性能な弾薬を補完する低コストなスタンド・オフ・ミサイルを、国産開発と併せて海外製品を取得するなど、高価・高性能と安価・大量の2極化も見て取れる。

主な事業としては「国産ミサイルの取得」「水中発射型極超音速誘導弾の開発」「安価なスタンド・オフ・ミサイルの開発・取得」「ターゲティング能力向上にかかる研究開発」等、約5千500億円＋事項要求である。

エ　統合防空ミサイル防衛

周辺国の航空・ミサイル戦力の増強継続、多様な無人アセットの増強に対し、航空攻撃から我が国を守り抜くためシューター・センサー・ネットワークの機能強化を推進。ウクライナの教訓も踏まえ、デコイの取得等による被害低減機能も強化。

主な事業は「中SAM（改）能力向上型への改修・取得」「ペトリオットシステム能力向上」「次世代JADGEの整備継続」「近距離対空システム（CRADS）の開発」「デコイの取得」等、約2千800億円＋事項要求である。

（2面へ続く）

隊友会が後援　銃剣道の各大会が開催

全日本銃剣道連盟主催の第57回全日本青年銃剣道大会及び第38回全国高校生銃剣道大会が8月6日に、高松宮記念杯第34回全日本銃剣道選手権大会及び彬子女王杯第2回全日本女子銃剣道選手権大会が8月7日に日本武道館で開催された。

本年は全日本銃剣道連盟創立70周年記念であり、全国から千名を超える選手が参加し競い合った。

各大会の優勝者・準優勝者は表のとおり。詳細は全日本銃剣道連盟ホームページ参照。

大会名	部門	優勝	準優勝
第57回全日本青年銃剣道優勝大会	青年第1部	第16普通科連隊A	第50普通科連隊
	青年第2部	防衛大学校A	第1普通科連隊A
高松宮記念杯第34回全日本銃剣道選手権大会		西村　健（大分）	福田賢二（東京）
彬子女王杯第2回全日本女子銃剣道選手権大会		里　麻衣（第16普通科連隊）	森川友紀子（普通科教導連隊）



選手権大会決勝



優勝大会青年第２部決勝



優勝大会青年第１部決勝

隊友会寄付者芳名

滋賀県特別会員
奥村　直広　様　5千円
航空自衛隊
宮川　知己　様　1万円
自衛隊中央病院
小川　均　様　2万円
防衛装備庁
伊藤　秀人　様　2万円
（順不同、九月三十日現在）



男子選手権大会入賞者



女子選手権大会入賞者



女子選手権大会決勝

発煙筒　成長心理学

わが国の少子化傾向に改善の見込みはありません。入隊者数が不十分でありながらも、自衛隊の平均年齢の低さ（若さ）は他組織の群を抜いており、「若者」が中心の職場です。

筆者の大学の卒業（ゼミ）論文は、神話の神々の成長を深層心理学の視点で分析して、文化人類学的に世界的共通性を検証するというものでした。

神々（特に英雄神）の成長物語は、数々の試練を、知恵と腕力と運と協力者の助けによって乗り越えるストーリーです。これは、青少年期のココロの成長の擬態とも解釈できます。例えば、スサノヲノミコトが暴れて天照大御神が岩屋に籠った記述を、青年期の成長心理として何を表しているかといった感じです（乱暴にまとめると「マザーコンプレックス」の一形態ですかね）。

小生も医療行為としての臨床心理を修めたわけではないので、「死にたい」「睡眠障害」等の深刻な症状がある場合は専門家の診断と治療が絶対に必要ですが、普段何気なく若い隊員と向き合う際に活用できないわけではありません。

大事なことは、相手の「人となり」「現在の環境」に強い関心を持って、相手の立場で話を聞き、自分自身で問題解決の方法を考えさせることです。普通は何か悩み事を相談されたら、的確な回答・アドバイスを提供することが良さそうですが、「答え」を貰っても本人は全く成長しません。今（常務執行役　堀井泰蔵）

現在の悩みが解決したら、別の悩みが生まれるわけだし、今悩んでいる・困っているということ自体が「成長のプロセス（きっかけ）」の一つかもしれません。少年神が数々の困難を乗り越えなければ英雄神には成長できない「手続き」なのですね。

もちろん任務で一刻を争うような場合や危険が迫っている場合はこの限りではありませんが、プライベートな一個人としての悩みの場合は、これをきっかけに成長してほしいものです。

心の成長途上の若者には「何をやってもツマラナイ」「自分は何もできないダメな人間だ」「何故がんばれないのだろう」「嫌われている気がする」といった漠然とした不安はつきものです。

最後に具体的な言い方です。

「なるほど。それは困ったねぇ。どうしたらよいか一緒に考えようか」





